

2021年の 木材輸入実績について

2021年は、世界的な木材需要の高まりや海上輸送の混乱等により、いわゆる「ウッドショック」が発生した年となりました。
本稿では、世界の動向を概観した上で、2021年における我が国の品目別輸入実績を報告します。

1 世界の木材需給の動向

米国の住宅着工戸数は、2020年に引き続き高い水準を維持しました。製材価格も上昇し、5月には、過去最高の1514ドル/mof (mof=2.43)を記録しました。その後も、価格の上昇傾向が続いています。また、世界的なコンテナ不足により、海上輸送運賃が上昇し、2021年12月の日本向けの海上輸送運賃は、米国発で前年同月比1.5倍、欧州発で同1.9倍を記録しました。

地域別に見ると、カナダでは、夏の大規模な山火事による出材量の激減や、11月のBC州での豪雨災害による輸送の寸断などが起こりました。

欧州では、建築物の着工が堅調で域内の木材需要が増加したほか、米国への輸出も増加しました。この要因としては、虫害木処理のため伐採量が増加し、原木供給が旺盛であったことが挙げられます。

東南アジアでは、移動制限による人手不足や、悪天候による原木供給不足により、合板等の生産が停滞しました。中国では、丸太輸入量が前年比で6%増加しました。輸入先国としては、ニュージーランドが26%増、ドイツが15%増（虫害被害木など）となりました。

2 2021年の木材輸入実績

① 木材輸入額 (図1)

2021年の木材輸入額(HS44類)は、前年比30%増の1,234億円となりました。

国別に見ると、EUで前年比29%増、中国で同26%増、カナダで同109%増、ベトナムで同29%増、フィリピンで同32%増、インドネシアで同22%増など、主要国で軒並み増加しました。EUは、2年連続で木材輸入額が世界第一位となりました。

② 丸太の輸入量 (図2)

2021年の丸太輸入量は、前年比15%増の264万m³となりました。

図2. 丸太輸入量の推移 資料:「貿易統計」(2021年は確々報値)

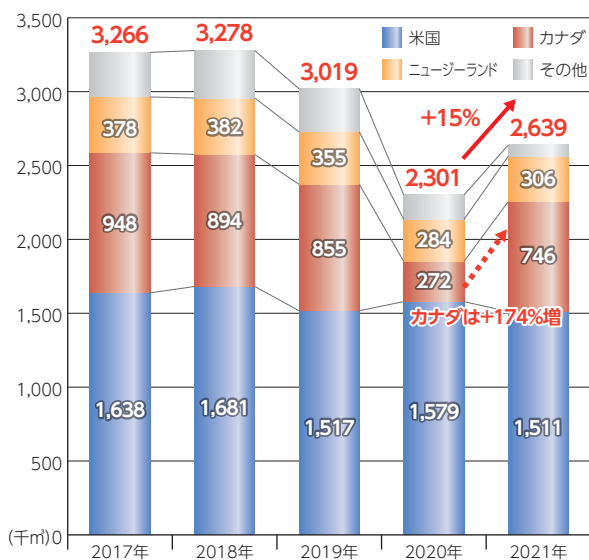
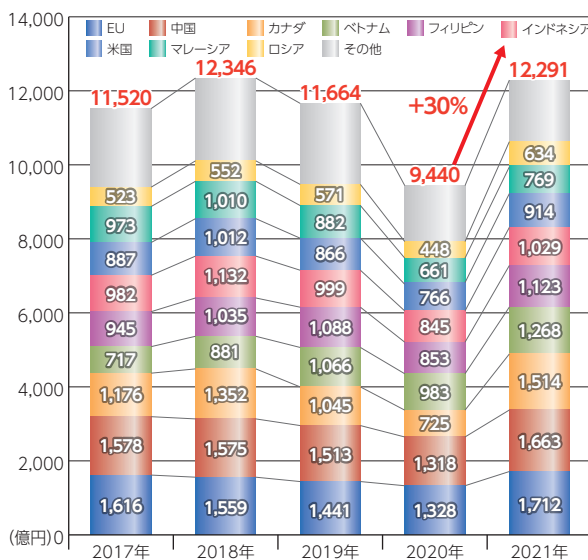
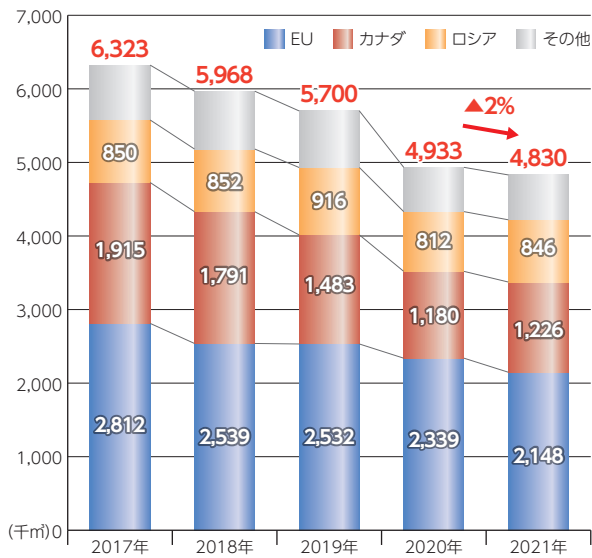


図1. 木材輸入額の推移 資料:「貿易統計」(2021年は確々報値)



米国(シェア57%)は、大手丸太輸出業者の撤退により、同4%減の151万m³でした。カナダ(同28%)は、同17.4%増の75万m³でした。

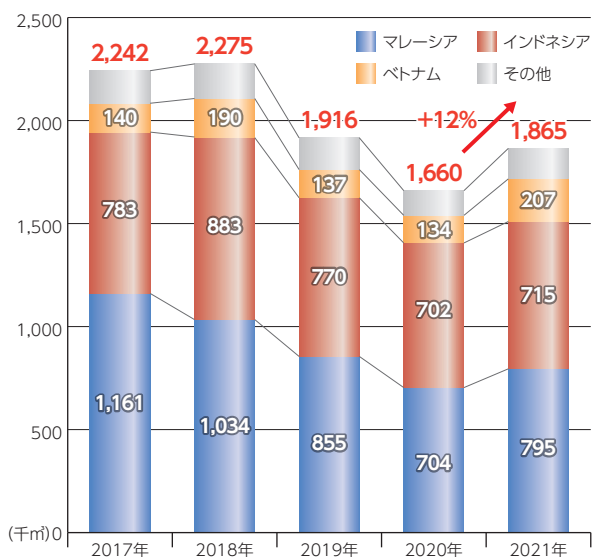
図3. 製材輸入量の推移 資料:「貿易統計」(2021年は確々報値)



④合板の輸入量(図4)
2021年の合板輸入量は、前年比12%増の187万

最大手丸太輸出業者の伐採再開(2020年)により、輸入量が回復しました。
ニージーランド(同12%)は、同8%増の31万m³でした。
③製材の輸入量(図3)
2021年の製材輸入量は、前年比2%減の483万m³となりました。
EU(シエア44%)は、同8%減の215万m³でした。海上輸送の混乱と産地価格の上昇で供給に制約が生じたことや、米国向け輸出や欧州域内への販売が増加したことにより、日本向け輸出が減少しました。
カナダ(同25%)は、同4%増の123万m³でした。日本国内におけるツーバイフォー住宅の着工戸数の増加や、米国大手製材輸出業者の日本向け供給撤退を受けて、日本向け輸出が増加しました。また、北米での製材価格の高騰により、輸入単価は急上昇しました。
ロシア(同18%)は、同4%増の85万m³でした。

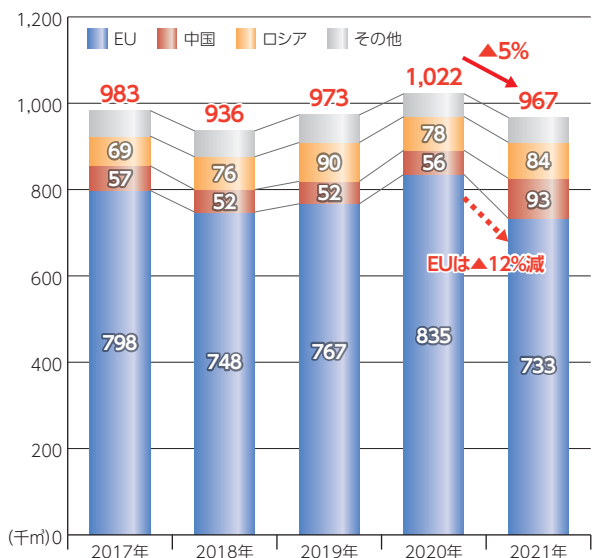
図4. 合板輸入量の推移 資料:「貿易統計」(2021年は確々報値)



⑤集成材の輸入量(図5)
2021年の集成材輸入量は、前年比5%減の97万

m³となりました。マレーシア(シエア43%)は、前年比13%増の79・5万m³でした。原木の出材不足や海上運賃の上昇等による供給面での制約があったものの、日本国内での需要増加を受け、輸入量が増加しました。
インドネシア(同38%)は、前年比2%増の71・5万m³でした。マレーシアと同様に、供給面での制約があったものの、北米での港湾混乱を受けて、北米向けの一部を日本向けに振り替えたことで、輸入量が増加しました。
ベトナム(同11%)は、前年比54%増の20・7万m³となりました。上記2か国での供給制約を受けて、輸入量が急増しました。

図5. 集成材輸入量の推移 資料:「貿易統計」(2021年は確々報値)



※ 出典等については、林野庁ウェブサイトに掲載した「2021年の木材輸入実績」をお確かめ下さい。
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/boutai/yunyuu/attach/pdf/boueki-69.pdf>



3 おわりに
2021年の木材輸入量は、2020年と比較すると丸太と合板で増加しましたが、2019年の水準には回復しませんでした。また、製材、集成材は減少しました。
一方、輸入額で見ると、世界的な木材価格の上昇により、2019年を上回りました。2022年に入っても、北米の木材価格の上昇傾向は続いています。
今後、ウクライナを巡る情勢から、ロシア材や欧州材の輸入動向にも変化が生ずることが予想されます。林野庁では、引き続き木材の輸入動向に関する情報を積極的に提供してまいります。